

# 令和6年度当初予算の概要

## 予算編成の基本方針と予算総額

国においては、コロナ禍の3年間を乗り越え、経済が改善しつつあり、高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、経済の先行きには前向きな動きが見られ、デフレから脱却できる千載一遇のチャンスを迎えている。しかし、その一方で、賃金上昇は物価上昇に追い付いておらず、再びデフレに戻るリスクがある中、デフレ脱却の一時的な措置として国民の可処分所得を下支えするとともに、構造的賃上げに向けた供給力の強化を図るため、「デフレ完全脱却のための総合経済対策」を策定し、実行されているところだ。令和6年度予算については、令和5年度補正予算と一体として、国内投資の促進等による新しい資本主義の実現に向けた取組の加速や、防災・減災、国土強靱化等の重要な政策課題について必要な予算を編成することとされました。

また、地方においては、国の取組と基調を合わせた歳出改革に努めることとされた上で、社会保障関係費や人件費の増加が見込まれる中において、こども・子育て政策の強化、物価高への対応、地域脱炭素や消防・防災力の一層の推進・強化等に取り組むため、地方財政対策において、安定的な財政運営を行うために必要となる地方交付税等の一般財源総額について、令和5年度を上回る65.7兆円が計上されました。

本市の予算編成にあたっては、限られた財源を有効に配分するため、すべての事務事業において、発展的なスクラップアンドビルドの視点を持って見直しを行うこととし、人口減少や少子高齢化をはじめ、物価高、地球温暖化などの重要課題に対応するため、子ども・子育て支援の更なる充実や交流人口・定住人口の拡大、すべての市民が安全・安心で輝ける諫早市の実現に向けて全力で取り組む、諫早の明るい未来を「拓く」チャレンジ予算を編成しました。

当初予算総額は、

一般会計 70,070,000千円

特別会計 33,901,700千円 となり、

令和5年度の当初予算と比較しますと

一般会計 3,750,000千円 ( 5.7%) の増

特別会計 980,600千円 ( 3.0%) の増であり

合計では、 4,730,600千円 ( 4.8%) の増となります。